

(3) 受賞者掲示場所と表彰式

掲 示 【日時】6月25日(土) 14:00
 【場所】総合受付付近の掲示板
 表彰式 【日時】6月25日(土) 16:00
 【場所】B会場(閉会式)

※詳細は、日本医療マネジメント学会雑誌11巻3号・4号及び第13回日本医療マネジメント学会学術総会ホームページ(下記記載)を参照ください。

問い合わせ先

第13回日本医療マネジメント学会学術総会事務局

市立福知山市民病院 総務課
 〒620-8505 京都府福知山市厚中町231
 TEL:0773-22-2101(代)・FAX:0773-22-6181

運営事務局

株式会社JTBコミュニケーションズコンベンション事業局
 〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-10 梅田ダイビル4F
 TEL:06-6348-1391(代)・FAX:06-6456-4105
 E-mail:13jhm@jtbcom.co.jp

第13回
 日本医療マネジメント学会学術総会ホームページ
<http://13jhm.jtbcom.co.jp>

開催報告

分科会

2011年度第1回クリティカルパス実践セミナー
in岡山

国立病院機構岡山医療センター副統括診療部長 後藤隆文



会場風景

クリティカルパス実践セミナーに参加して先ず驚いたのはクリティカルパスの進化です。10年近く前、岡山医療センターからの強い要請で自科(小児外科)クリティカルパスを複数個作成していま

した。このセミナー受講までは、クリティカルパスとは出来の悪い職員(医師・看護師)に入院後の治療や検査の大まかな手順を解らせるためのものであり、患者の安全管理にしか活用法はない、と思っていました。安全管理以外の様々なクリティカルパス活用法・評価法を体験すると、『クリティカルパスもまんざらではない・・・積極的に取り入れても良い・・・いやいや・・・積極的に取り入れた方が良い』、と迂闊にも感じてしまいました。

翌日の“バリエーション分析”についても、当初はその必要性を殆んど感じていませんでした。ゲート・・・だとかオール・・・だとか、アフィニティも全くなく、大凡の雰囲気だけでも理解すればそれで充分だと思っていました。しかし、これ

も“良いクリティカルパスを作成する上では避けて通れないものだ”と痛感してしまいました。目から沢山のウロコが落ちたようです。厚く感謝いたします。

久しぶりのグループワークでもあり、同じグループになった近藤先生(男性)には申し訳ないのですが、若い女性の方々と親しく話が出来たことは、良いリフレッシュにもなりました。この点でも・・・有り難うございました。

支部学術集会開催報告

第9回島根支部学術集会

学術集会会長：島根大学医学部附属病院病院長 小林祥泰

第9回島根支部学術集会を2010年9月25日(土)大社文化プレイスうらら館において、メインテーマを「地域医療における質の向上と標準化－臨床指標の有用性とその活用－」として開催し、関係者を含め、24施設342名の方々にご参加いただきました。



会場風景

医療の質の向上には標準化とともに臨床指標を公開することが不可欠ですが、本学会の目的は医療の質の向上であり、また、厚生労働省は臨床指標の研究に支援するなどの方策を講じております。

このようなニーズに応えるべく、特別講演では池田俊也先生に医師の、また、新しい試みのランチョンセミナーでは小林美亜先生に看護師のお立場から、今日にも役立つ臨床指標やクリティカルパスのご講演をいただきました。さらに、シンポジウムでは、多職種のシンポジストの方々に、日常の各部署で利用される「臨床指標」について、他の病院でもすぐにでも活用できる内容のご発表をいただき、活発なディスカッションが行われました。

今回の学術集会が成功裏に終了致しましたことを関係者のみなさまに心より感謝致します。

第6回奈良支部学術集会

当番世話人：奈良社会保険病院病院長 高原康行

第6回奈良支部学術集会は2011年2月5日(土)に橿原市の奈良県社会福祉総合センターにて開催いたしました。参加者総数は329人でした。



会場風景

医療の危機が叫ばれている中、患者・医療者の信頼と相互理解・協力こそが再生のキーであるとして、「信頼の医療」をテーマとしました。(次頁へ)